令和５年度　学校評価結果（北海道美深高等養護学校）

1　教職員評価

(1) 実施日

令和５年 11 月１日～令和５年 11 月 20 日

(2) 対象者

教職員　80 名（提出　73 名　／　提出率　91.3%）

(3) 結果

ア　教職員（令和５年度平均評価点　3.22　　令和４年度平均評価点　3.18）

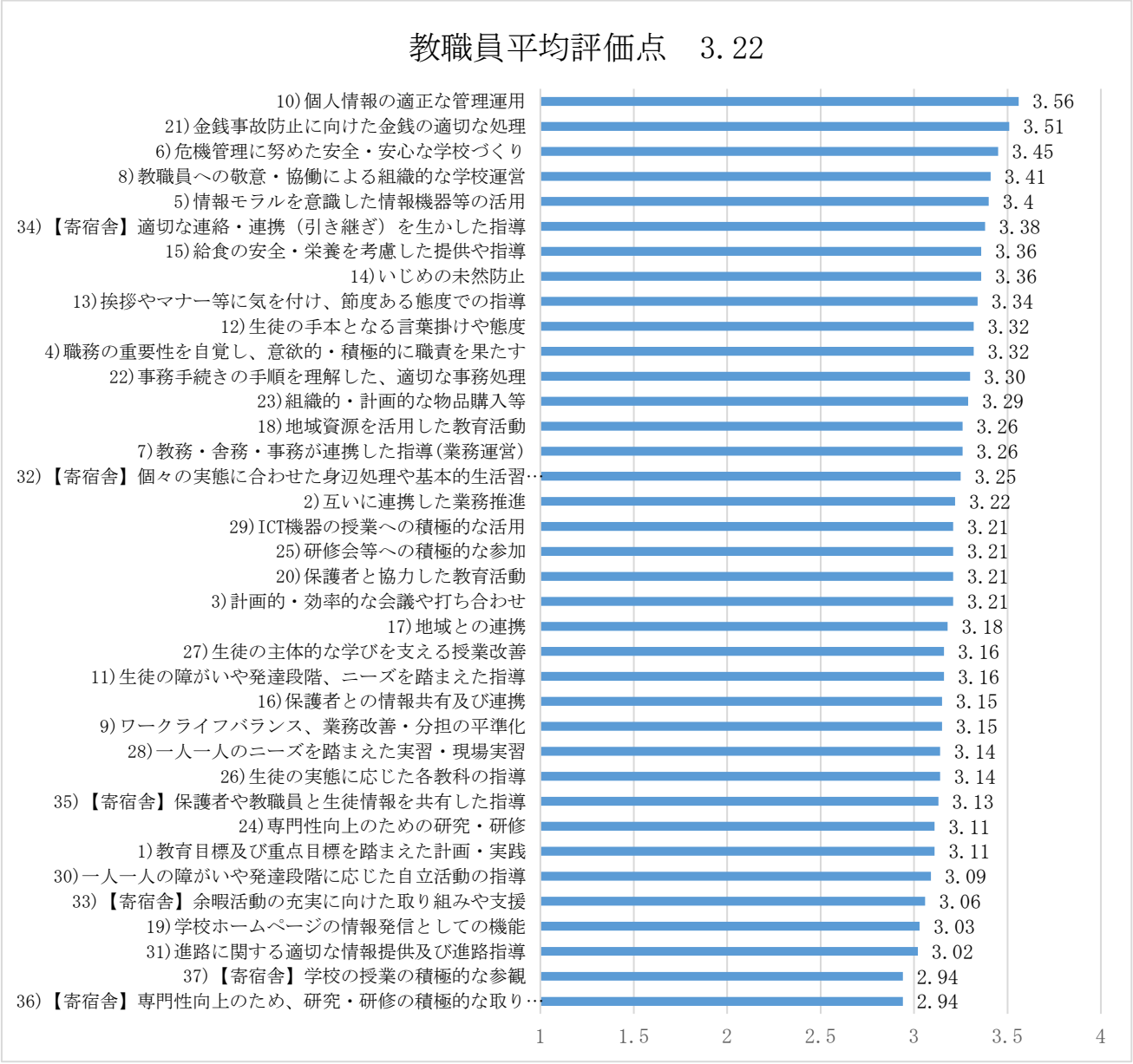
(ｱ) 評価点は次のとおりとした。

・評価４（十分）～４点　　・評価３（おおむね）～３点

・評価２（不十分）～２点　　・評価１（まったく）～１点

(ｲ) 図１は 37 の評価項目を、評価点の平均値別に整理した図である。

【図１　平均評価点（教職員）】



イ　学校運営

評価項目	考察及び次年度に向けて
1)私は、教育目標・年度の重点目標を踏まえ、各業務計画に反映しながら計画の作成及び実践をしている。 2)私は、学年、学科、分掌及び教務、舎務、事務部門の運営において、互いに連携を図り、業務を進めている。 3)私は、諸会議や打合せを計画的・効率的に行っている。 4)私は、教職員としての職務の重要性を自覚し、日々研鑽して努めるとともに、意欲的・積極的に職責を果たそうとしている。 5)私は、情報モラルを意識して情報機器等を活用している。 6)私は、危機管理に努め、安全・安心な学校づくりを行っている。 7)私は、教務・舎務・事務で情報を共有し、連携を図った指導（業務運営）に努めている。 8)私は、本校で働く全ての教職員に敬意をもって接し、協働による組織的な学校運営に努めている。 9)私は、ワークライフバランスを意識した働き方を心掛け、業務改善及び業務分担の平準化に努めている。 10)私は、個人情報を適正に管理運用をすることができている。	・令和５年度平均評価点　3.31 （令和４年度平均評価点　3.24） ・全ての項目で評価４（十分）、評価３（おおよそ）の合計が 95%を超える評価となっている。
	・学校教育目標の具現化に向け、教職員全体で取り組むことができたのではないかと推測される。次年度は、個々の教職員が今年度以上に学校経営への参画意識をもち、全ての教職員が連携してカリキュラム・マネジメントを推進することが必要である。 ・ワークライフバランスを意識した働き方については、学年、学科、分掌、寄宿舎等で行事の精選、日課や持ち時数・業務内容等の調整を行い、業務改善及び業務分担の平準化を図る。 ・個人情報の適正な管理運用が、全項目の中で一番高い評価となった。次年度も今年度同様、緊張感をもって個人情報の管理等に務め、個人情報の紛失及び流出ゼロに向けて全校体制で取り組む。

ウ　教育活動【平均評価点：３．２８】

評価項目	考察及び次年度に向けて
11)私は、親和的、共感的に生徒の実態を理解し、生徒の障がいや発達段階、生徒・保護者のニーズを踏まえた指導をしている。 12)私は、言葉掛けや態度など、生徒の実態や心情を考慮し望ましい手本となるように努めている。 13)私は、挨拶やマナー、服装、時間などに気を付け、節度ある態度や決まりを守り指導している。 14)学校は、生徒の人間関係の把握をきめ細かに行い、いじめの未然防止に努めている。 15)給食は、安全・栄養を考慮した提供や、その指導が行われている。	・令和５年度平均評価点　3.28 （令和４年度平均評価点　3.34） ・全ての項目で評価４（十分）、評価３（おおよそ）の合計が 95%を超える評価となっている。
	・「北海道美深高等養護学校　職員行動指針」に沿い、全教職員が人権の尊重等を意識し、誠実に職務を遂行することができたのではないかと推測される。 ・いじめの未然防止については、今年度同様、校内支援委員会を機能させ、学年や寄宿舎等における生徒の様子を丁寧に把握し、生徒指導及び支援につなげることができるようにする。

エ　保護者や地域との連携

評価項目	考察及び次年度に向けて
16)私は、保護者に学習や生活の様子、学校事務に関することなどを分かりやすく知らせるとともに、家庭での様子の把握に努めている。 17)私は、学校を取り巻く様々な立場や価値観を把握し、よりよい連携が図	・令和５年度平均評価点　3.17 （令和４年度平均評価点　3.01） ・全ての項目で評価４（十分）、評価３（おおよそ）の合計が 90%を超える評価となっている。

られるよう努めている。 18)学校は、地域資源の活用、地域行事への参加など、地域と関わる教育活動に取り組んでいる。 19)学校は、本校のホームページが、保護者、地域、中学生に向けた学習活動等の情報発信のツールとして十分機能していると思っている。 20)私は、保護者と協力しながら教育活動を行っている。	・社会に開かれた教育課程の実現に向け、これまで以上に保護者や地域と連携した教育活動を推進することができるよう、学科の特色を生かした実習や、地域資源を活用した学習に取り組み、地域と協働した学習活動を推進する。 ・ホームページについては、現在、新サービスへの移行のタイミングで新しいテンプレートを作成している。本校取り組みや学習の様子が、生徒、保護者、地域、本校への入学を検討している中学生にも分かりやすいように配慮する。また、ホームページの更新は、一部の担当者のみではなく、多くの教職員が関わり、行事以外に学科や教科等の日頃の学習の様子等についても掲載し、積極的な情報発信を行う。

オ　会計・事務

評価項目	考察及び次年度に向けて
21)私は、学校徴収金の管理や事務処理について、会計事務処理要領に則って適切に処理し、金銭事故防止に努めている。 22)私は、事務手続きの手順を理解し、適切に事務処理を行っている。 23)私は、物品の購入や経費を伴う計画等を、組織的・計画的に行っている。	・令和５年度平均評価点　3.37 （令和４年度平均評価点　3.33） ・全ての項目で評価４（十分）、評価３（おおよそ）の合計が 95%を超える評価となっている。
	・金銭事故防止に向けた金銭の適切な処理について、高い評価となった。この点からも教職員における金銭事故防止に対する責任感や緊張感をもって対応してきたと推測される。 ・次年度も継続して組織体制で金銭管理を行い、金銭事故防止に取り組む。 ・事務手続きについては、誰にでも分かりやすい丁寧な説明を心掛ける。

カ　研究・研修

評価項目	考察及び次年度に向けて
24)私は、新しい研修制度に係り、専門性向上のため研究・研修に積極的に取り組んでいる。 25)私は、今年度、研修会（道教委主催、北特研、民間の研修等を含む）に積極的に参加した。	・令和５年度平均評価点　3.16 （令和４年度平均評価点　2.85） ・全ての項目で評価４（十分）、評価３（おおよそ）の合計が 95%を超える評価となっている。
	・今年度、北特研道北地区大会を開催した。また、ICT に係る校内研修を推進し、校内において学びの機会を多く設定することができた。 ・令和の日本型学校教育を担う新たな教師の学びの姿の実現として研修の推進が示されている。研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励により、道教委や北海道立特別支援教育センターの研修、また、民間の研修への積極的な参加を促し、学校全体で専門性の向上を図る。

キ　教育課程・学習指導・進路指導

評価項目	考察及び次年度に向けて
26)私は、学習指導要領に沿い、教科横断的な視点をもち、生徒の実態に応じて各教科の指導計画を作成している。 27)私は、生徒の主体的な学びを支える授業改善に取り組んでいる。 28)私は、実習・現場実習等において、一人一人のニーズを踏まえ、社会生活につながるように工夫をしている。 29)私は、ICT 機器を積極的に活用しながら授業を行っている。 30)私は、自立活動の指導を個別の指導計画の基、一人一人の障がいや発達の程度に応じて適切に行っている。 31)私は、生徒の卒業後の生活を見据え、懇談会や進路だよりを通して、進路に関する適切な情報提供及び進路指導を行っている。	・令和５年度平均評価点　3.13 （令和４年度平均評価点　3.20） ・全ての項目で評価４（十分）、評価３（おおよそ）の合計が 95%を超える評価となっている。 ・生徒が主体的に学ぶことができる授業づくりについて、校内研究の中で取り組むことができた。 ・本校教職員が講師となり、校内でミニ研修会を実施した。ミニ研修会をとおして、障がいの実態に応じた指導や ICT を活用した指導等について、職員間で学びを深めることができた。 ・授業実践、授業改善をとおして、指導力や授業力を高め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 ・今年度、自立活動研修会を実施し、自立活動の在り方について共通理解を図ることができた。次年度の教育課程の改善・充実につなげていく。

ク　（寄宿舎）生活指導、指導体制、研究・研修

評価項目	考察及び次年度に向けて
32)私は、生徒一人一人の理解に努め、個々の実態に応じて身辺処理や基本的生活習慣の確立のための指導に努めている。 33)私は、生徒の余暇活動が充実するような取り組みや支援を行っている。 34)私は、連絡・連携（引き継ぎ）を適切に行い、指導に生かしている。 35)私は、生徒の寄宿舎での状況を保護者や教務職員と共有し、指導を行っている。 36)私は、専門性向上のため、研究・研修に積極的に取り組んでいる。 37)私は、学校での授業の様子を積極的に参観した。	・令和５年度平均評価点　3.11 （令和４年度平均評価点　3.29） ・全ての項目で評価４（十分）、評価３（おおよそ）の合計が 90%を超える評価となっている。 ・適切な連絡・連携（引き継ぎ）を生かした指導の項目が高い評価となった。寄宿舎内で行っている日々の打ち合わせや引き継ぎ等が指導に反映しているにではないかと推測される。次年度も引き続き適切な連絡等を行い、丁寧な指導につなげる。 ・研究・研修の積極的な取り組みと、学校の授業の積極的な参観の項目が低い評価となった。研究・研修については、長期休業中に道教委や北海道立特別支援教育センターの研修や民間の研修へ参加することができるよう、研修担当が中心となって取り組む。課業日の研修参加については、可能な範囲で勤務の調整を図る。学校の授業の積極的な参観については、教務と寄宿舎の研修担当で連携し、授業参観週間や授業参観月間等を設定し、授業を見に行きやすい場面を設定する。

２　保護者評価

（1）実施日

令和５年 11 月２日～令和５年 11 月 20 日

（2）対象者

保護者　79 家庭（提出　49 名　／　提出率　62.0%）

（3）結果

ア　保護者（令和５年度平均評価点　3.57　　令和４年度平均評価点　3.63）

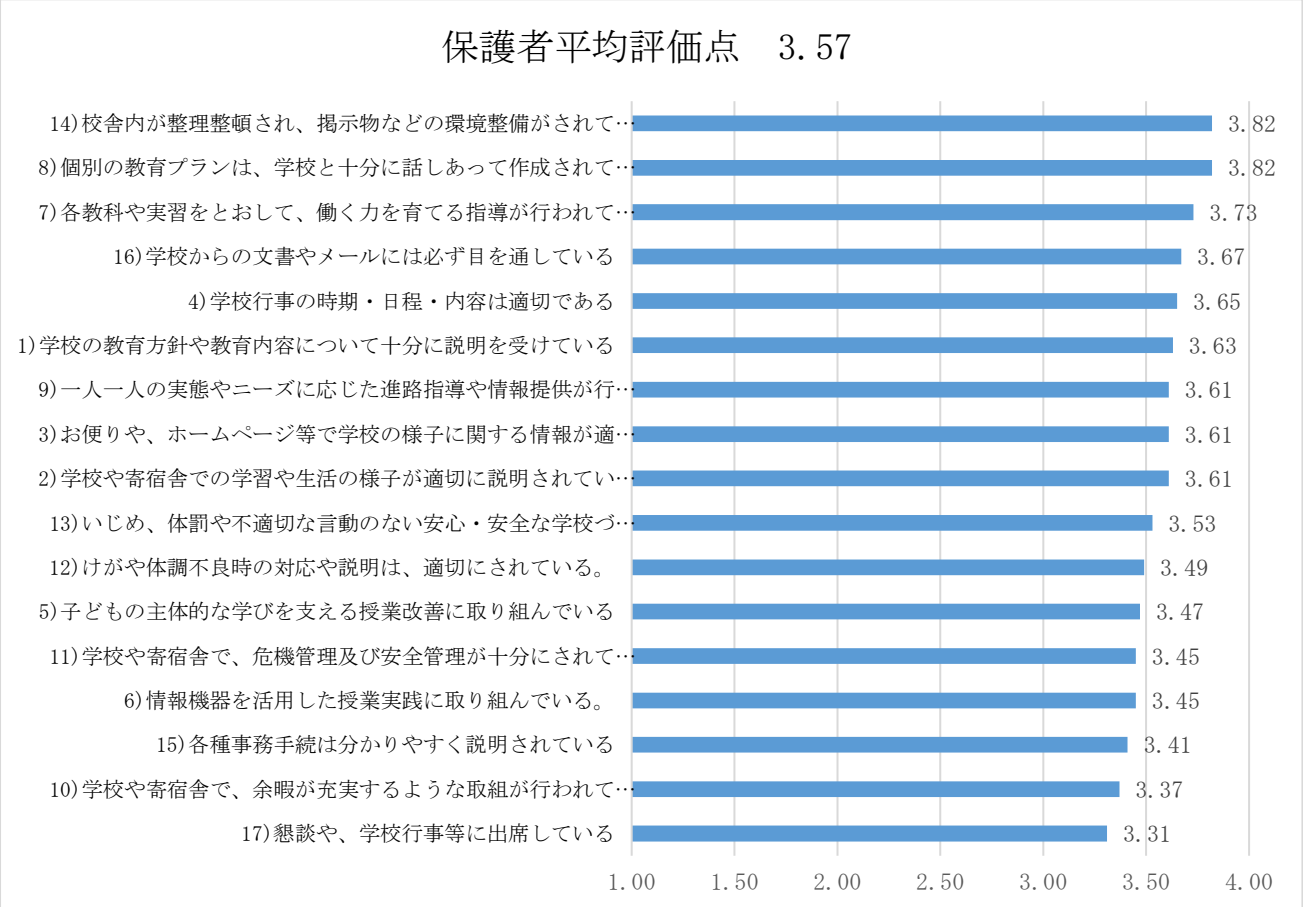
(ｱ) 評価点は次のとおりとした。

・評価４（できている）～４点　　・評価３（おおむね）～３点

・評価２（不十分）～２点　　・評価１（まったく）～１点

(ｲ) 図２は 17 の評価項目を、評価点の平均値別に整理した図である。

【図２　平均評価点（保護者）】



イ　各項目の平均評価点、分析及び次年度に向けて

評価項目	平均評価点
◆学校運営 1)学校の教育方針や教育内容について十分に説明を受けている。 4)学校行事の時期・日程・内容は適切である。 11)学校や寄宿舎で、危機管理及び安全管理が十分にされている。 12)校舎内が整理整頓され、掲示物などの環境整備がされている。	３．６４

◆保護者と学校の連携 2)学校や寄宿舎での学習や生活の様子が適切に説明されている。 3)お便りや、ホームページ等で学校の様子に関する情報が適切に提供されている。 12)けがや体調不良時の対応や説明は、適切にされている。 16)学校からの文書やメールには必ず目を通している。	３．６０
◆教育課程 5)子どもの主体的な学びを支える授業改善に取り組んでいる。 6)情報機器を活用した授業実践に取り組んでいる。 7)各教科や実習をとおして、働く力を育てる指導が行われている。 8)個別の教育プランは、学校と十分に話しあって作成されている。 9)一人一人の実態やニーズに応じた進路指導や情報提供が行われている。 17)懇談や、学校行事等に出席している。	３．５６
◆余暇の充実 10)学校や寄宿舎で、余暇が充実するような取組が行われている。	３．３７
◆教育活動 13)いじめ、体罰や不適切な言動のない安心・安全な学校づくりに努めている。	３．５３
◆会計・事務 15)各種事務手続は分かりやすく説明されている。	３．４１

【分析及び次年度に向けて】

・全 17 項目「評価４　できている」「評価３　おおむね」の割合が、全項目で 90%以上と高い評価をいただいた。

・平均評価点が 3.57 と高い数値となった。本校の取り組みについて一定の評価をいただいたのではないかと推測される。

・最も評価点が高かった項目は、「校舎内が整理整頓され、掲示物などの環境整備がされている。」と「個別の教育プランは、学校と十分に話しあって作成されている。」で、ともに評価点 3.82 だった。この結果は、校内の教育環境の整備や、保護者と連携した個別の教育プランの作成が評価されたのではないかと推測される。

・「懇談や、学校行事等に出席している。」が低い評価点となった。今年度５月より、新型コロナウイルス感染症が５類になり、行事等の取り扱いが昨年度までと大きく変わった。保護者も行事等への参加に対して戸惑いがあったのではないかと推測される。次年度に向け、行事の精選や内容の整理等を行い、アフターコロナにおける行事等の在り方について検討する。

・保護者評価は前年度から、Google フォームを使用し Web 上で回答していただいている。昨年度の提出率が 45.8%で今年度の提出率は 62.0%と、提出率は上昇しているが、依然として低い提出率となっている。原因として、保護者が Google フォームの使用に慣れていないことが推測される。次年度は、学校評価以外の場面でも保護者が Google フォームを使用する場面を作り、Web 上で回答する機会を複数回設定する。

3　生徒アンケート

(1) 対象者

生徒　83名（提出　76名　／　提出率　91.6%）

(2) 結果及び考察

ア　自分のことを分かってくれる先生がいる。【はい　８９．５％　／　いいえ　２．６％　／　分からない　７．９％】

結果	考察
◆「はい」の割合が、昨年度より11%増加 ・３学年は（昨年度２学年次と比較して）22%増加 ・２学年は（昨年度１学年次と比較して）13%増加 ・１学年は（昨年度入学１学年次と比較して）６%減少	・「はい」の割合が、全体的に増加している。 ・２、３学年は、「いいえ」が０％である。 ・今後も、学年、学科、寄宿等において、生徒の適切なアセスメントに努め、障がい実態合わせた指導に取り組む。

イ　先生はどの生徒にも公平に接してくれる。【はい　６１．８％　／　いいえ　２．６％　／　３５．５%】

結果	考察
◆「はい」の割合が、全体で（昨年度と比較して）10%減少 ・３学年は（昨年度２学年次と比較して）６%減少 ・２学年は（昨年度１学年次と比較して）19%減少 ・１学年は（昨年度入学１学年次と比較して）17%減少	・「はい」の割合が、全体的に減少傾向となっている。 ・昨年度と比べると「いいえ」の割合は変わっていないが、「分からない」の割合が増加している。公平な先生もいれば、不公平だと感じる先生もいるということや、生徒の特性によって配慮していることが不公平と感じている生徒がいる可能性もある。生徒面談をとおして、指導方針等の共通理解を図る。

ウ　悩んだり困ったとき誰に相談しますか。【相談することができる　９８．４％　／　誰にも相談しない　１．６％】

結果	考察
◆「相談できる人がいる」の割合が、98.4%だった。 ・３学年は（昨年度２学年次と比較して）同率で100% ・２学年は（昨年度１学年次と比較して）同率で96% ・１学年は（昨年度入学１学年次と比較して）２%減少で98%	・多くの生徒が、相談することができる人がいるという結果だった。 ・誰にも相談をしないという生徒が数名いた。これらの生徒については、日頃から職員から声を掛けたり、様子を観察を行ったりして丁寧に対応する。

エ　学校に行くのが楽しい。【はい　７１．１％　／　いいえ　９．２％　／　分からない　１９．７%】

結果	考察
◆「はい」の割合が、全体で（昨年度と比較して）４%増加 ・３学年は（昨年度２学年次と比較して）２%減少 ・２学年は（昨年度１学年次と比較して）２%増加 ・１学年は（昨年度入学１学年次と比較して）５%減少	・「はい」の割合は、昨年度と全体的にはあまり変わらない。 ・「いいえ」「分からない」の割合が昨年度より減少している。 ・今後も、魅力ある学校づくりに努め、生徒が学校に行くのが楽しいと思えるような学校となるよう授業や行事、余暇活動等の充実を図る。

オ　先生はわかりやすい授業をしてくれる。【はい　８８．２％　／　いいえ　２．６％　／　分からない　９．２%】

結果	考察
◆「はい」の割合が、全体で（昨年度と比較して）４%増加 ・３学年は（昨年度２学年次と比較して）３%減少 ・２学年は（昨年度１学年次と比較して）５%増加 ・１学年は（昨年度入学１学年次と比較して）９%増加	・全体では、「はい」の割合が増加傾向にある。 ・1学年は、「はい」は90%以上、「いいえ」は０%である。 ・校内研究等の実践を生かし、生徒が主体的に学習に取り組み、生徒個々が「分かった、できた、やってみよう」と思うことができる授業改善に取り組む。

カ　寄宿舎の生活が楽しい。【はい　６４．２％　／　いいえ　２２．４％　／　分からない　１３．４%】

結果	考察
◆「はい」の割合が（昨年度と比較して）１%増加 ・３学年は（昨年度２学年次と比較して）19%増加 ・２学年は（昨年度１学年次と比較して）14%減少 ・１学年は（昨年度入学１学年次と比較して）14%減少	・「はい」の割合は、全体では昨年度とあまり変わらない。 ・昨年度と比べると１学年は「分からない」の割合が多い。 ・日々の生活や余暇の充実に取り組み、魅力ある寄宿舎づくりを図る。